

今月のトピックス 「ミカンサビダニについて」

1) どんな虫？

ミカンサビダニはカンキツ類においてのみ発生し、果皮への被害が大きく商品価値を著しく下げることから、重要害虫となっています。日本では、柑橘栽培地帯に広く分布しています。最近になって、薬剤感受性の低下した個体群が発生しており注意が必要で、年間防除体系のなかで対策をたてる産地が増えてきています。成虫でも 0.2mm に満たない非常に小さなダニなので、肉眼では見分けることができません。激発すると果実表面に茶色いホコリがつもったように見えます（そのホコリが多数のダニのかたまりです）。



2) どんな生活史？

成虫が芽の隙間で越冬していると言われています。4 月上旬中に発芽と共に活動を始め、5 月下旬～6 月中旬までは春葉上で世代を繰り返します。新葉が硬化すると、以降は幼果に移動して加害します。10 月下旬頃から越冬し始めると言われていますが、本県南部では年によっては、晩秋（11 月上旬）にも果実上に多数寄生しているのが確認されます。年間約 15 世代を繰り返すと言われています。

3) 被害の様子は？

春葉に多数の寄生があると、葉の裏面に葉脈に沿って茶色の模様が現れます。果実では、7 月までに被害を受けると果皮は白く変色してきます。8 月以降に被害を受けると特有の赤茶色の被害となります(写真)。たいてい被害果が見え始めてから発生に気がつくますが、その時では当年産の防除には手遅れのことが多いです。果実被害を受けると、肥大が抑制されたり、外観阻害、貯蔵性の低下など経済的損失が大きくなります。



7 月加害の被害果(8 月中旬)



8 月加害の被害果(9 月中旬)

4) 防除は？

防除時期は春葉硬化直前、7 月上旬中旬の果実移行期、10 月の越冬前です。前年産果実に被害果が確認された園地では、このダニに効果のある剤を選択する必要があります。